

請願
審査

北部療育センターの公設公営の維持 不採択 少人数学級の早急に順次拡大実施 保留

5月14日 教育子ども委員会 (さいとう愛子議員)

子どもと保護者が安心できる
少人数学級の実現を！

北部地域療育センターの
公設・公営の継続を！

「少人数学級の実現を求める」請願の審査で、初めに、さいとう議員は、現在の少人数学校のとりくみについて質問。「2017年・2018年の2年間は研究をしてきた」とのこたえに、「現状は、少人数学級の研究もされていない状況だが、生活面の効果があるとの確認は非常に重要」であり、請願にあるとおり「条件の整っているところから早急に順次拡大実施する」ように求めました。

また、請願が提出された後、新型コロナウイルスによる休校が続いてきましたが、今後の学校再開にあたっての感染防止策について、「学校再開にむけての文科省の通知」にもどづく文科省ガイドラインに準じて、教室に入ることが出来る児童数について尋ねました。

そして、さいとう議員は、学校再開後の小学校の1クラスを最大28人にすると発表したみよし市や、さまざまな財源対策に取り組みながら、今後は25人学級へと拡充する山梨県などの例をあげ、学校再開後の感染防止としての必要性をあげました。

さいごに、不登校増えている現状や、新型コロナ感染拡大防止を考えると、少人数学級を視野にいれるべきではないかと採択を求めましたが、保留となりました。

北部地域療育センターの公設・公営の継続を求める請願について、さいとう愛子議員は「療育センターは、本市の早期発見・早期療育のとりでとして、子どもたち保護者との信頼を築いてきた。公設・公営で継続し、親子ともに安心して療育を受けられるように」と発言しました。

また、常勤の小児科医師、小児整形外科医師などの医療スタッフ・療育スタッフについても民間委託における不安をうけとめ、特に医師の確保に市が責任を持たないといけなると指摘しました。そして、このまま安心して療育を受けられる体制を継続してほしいという請願者の思いを受けとめ、採択するよう求めました。

しかし、共産党以外の反対で不採択となりました。



請願	内容	共	自	減	公	
子どもと保護者が安心できる少人数学級の実現を求める件	学級編成基準を緩和し、市立学校の全学年に正規の教員配置で少人数学級を早急に順次拡大実施すること	慎重に判断				保留
	特別支援学校を増やし、子どもたちを大切に教育をする教育をすすめること	検討する				保留
北部療育センターの公設・公営を求める件	これまで通り、公設公営の運営を維持すること	賛成	反対	反対	反対	不採択
	医療スタッフの確保と育成は市が責任をもつこと	引き続き努力する				保留